

サイバーセキュリティだより

発行：愛媛県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課

令和3年
5月31日
Vol.61

働き方
改革！

RPAの業務自動化による生産性向上



ロボティクス プロセス オートメーション
Robotics Process Automationとは、これまで人間が行ってきた、キーボード入力やマウス操作、データの照合や変換などの定型的で反復性があるパソコン操作をソフトウェアのロボットが代替して自動化することです。

RPAで自動的に実行してほしいパソコン操作の手順や判断の条件などをRPA製品の機能を用いて具体的に記述したものを「シナリオ」といいます。

このシナリオを視覚的に作成・編集できるRPA製品が多く存在することから、特別なITスキルがなくても自分で開発を行うことが可能です。

RPAの活用効果事例

参考：総務省「RPA（働き方改革：業務自動化による生産性向上）」
(https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02tsushin02_04000043.html)

業種	具体的業務	効率化・削減効果	今後の展開（方向性）
大手都市銀行	煩雑な事務処理作業	年間8,000時間（1人1日8時間労働で計算すると約1,000日分）の事務処理作業を削減できた。	<ul style="list-style-type: none">業務の効率化により、事務を担当していた社員が他の重要な業務に稼働をあてられるようになった。複数のシステムを使う事務処理にRPAを適用することで、システム連携による業務の単純化も視野に入るようになった。

運用における要点

参考：総務省「自治体におけるRPA導入ガイドブック」
(https://www.soumu.go.jp/main_content/000731625.pdf)

リスク

RPAの停止や誤作動

シナリオの例外処理などが考慮されていないと実運用の中で思うように動作しない

RPAの不正利用や認証情報流出

正当な権限を有しない職員でも任意にRPAを実行できる状態であれば、悪意をもって不正利用される

職員の異動や退職等の人的リスク

職員の異動・退職等により内部構造がわからなくなりメンテナンスができなくなる

管理不十分となったRPAの想定外の動作

RPAが何らかの理由で管理不十分な状態になった場合、セキュリティ上のリスクになる

対策

どこまで正しく動作できたか確認できるようログを残す。実運用に入ってからでも処理結果を確認し、停止・誤作動があった場合に対応できる体制を確保しておく。

RPAの実行時にパスワードが必要な設定にし、実行を制限する。シナリオファイルの閲覧・編集をパスワードにより制限する。認証情報をアクセス制限のあるファイルサーバなどの領域に保存する。

RPAの仕様や操作方法を文書として残し、ノウハウを継承する。RPAのスキルを有する職員が後任にあたることのできるよう、研修等によりなるべく多くのスキル要員を養成する。

RPAツールのライセンスの種類や数量、導入端末などを管理台帳に記載し、一元管理する。RPAツールの修正パッチ適用やバージョンアップの際に、管理台帳に基づき必要な作業範囲を明らかにする。

RPAの導入と運用はリスクを理解して、その対策を講じた上で進めることが重要です。

自動化に伴う変化を見極め、現場部門とシステム関連部門が連携し、運用局面ごとのルール・シナリオ策定や適用可能な業務領域の拡大を検討するなど、継続的にPDCAサイクルをまわしながら活用しましょう。

相談窓口

愛媛県警察本部サイバー犯罪対策課 TEL089-934-0110(代)